
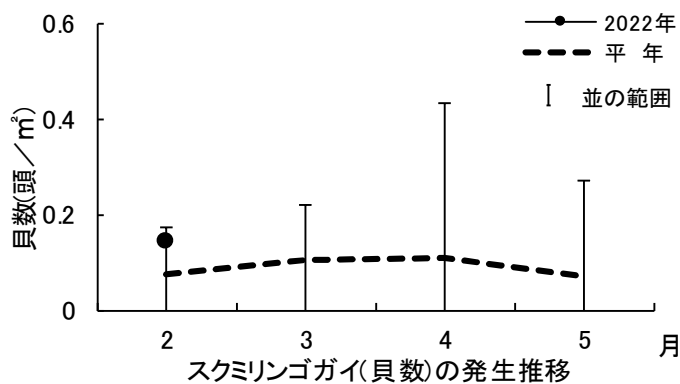


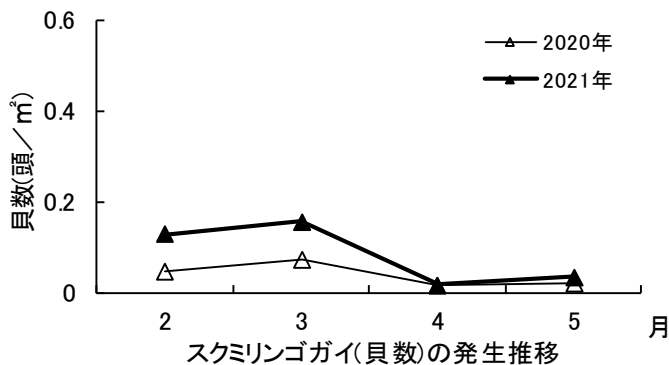
作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	① スクミリンゴガイ		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並	
予報	2 月からの増減傾向	↗	
	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移




過去 2 年間の推移



・発生ほ場率：43%（平年値：35%）

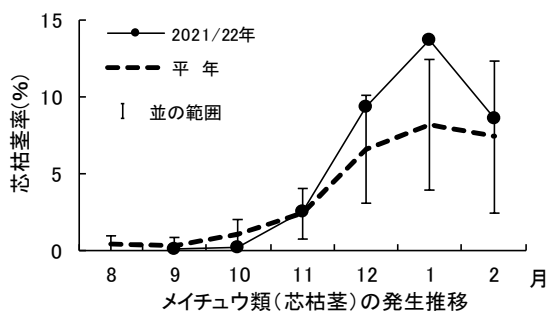
防除のポイント

- ・貝や卵塊は見つけ次第捕殺する。なお、捕殺時はゴム手袋を着用する。
- ・取水口に侵入防止網（目合6~9mm程度）を設置し、用排水路からの侵入を防ぐ。
- ・畦畔および用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所を作らない。

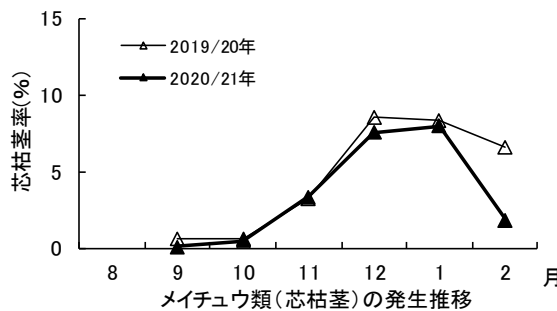
作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	① メイチュウ類(カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並	
予報	2 月からの増減傾向	—	
		3 月の発生量 (平年比)	—
予報の根拠			

調査結果

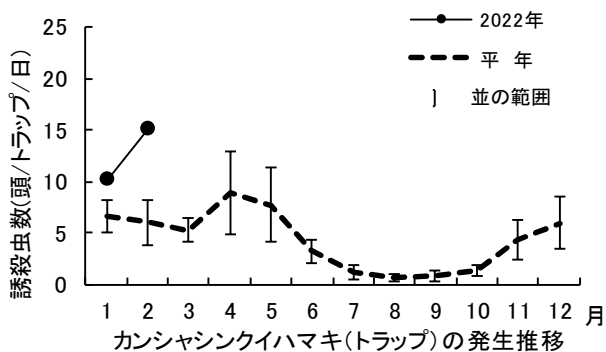
今期と平年の推移



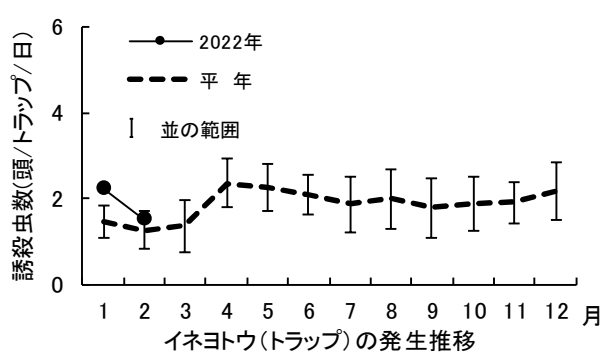
過去 2 年の推移



トラップ調査 (カンシャシクイハマキ)




トラップ調査 (イネヨトウ)



- ・ 芯枯れ発生ほ場率：82% (平年値：95%)
- ・ 茎内で発見したメイチュウ類のうち、60% (9/16頭) がカンシャシクイハマキ、40% (7/16頭) がイネヨトウであった。
- ・ 病害虫防除員報告：多発生 (波照間島)

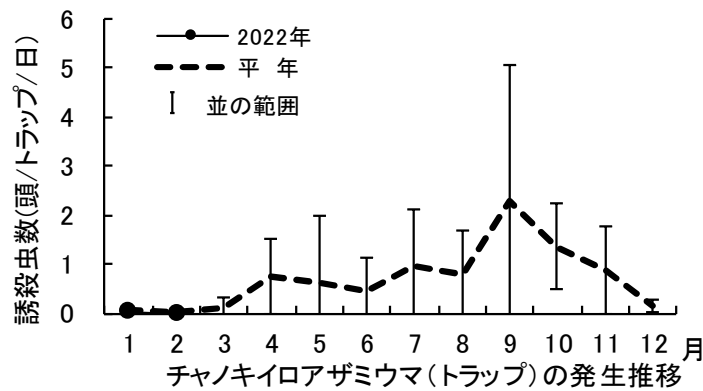
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

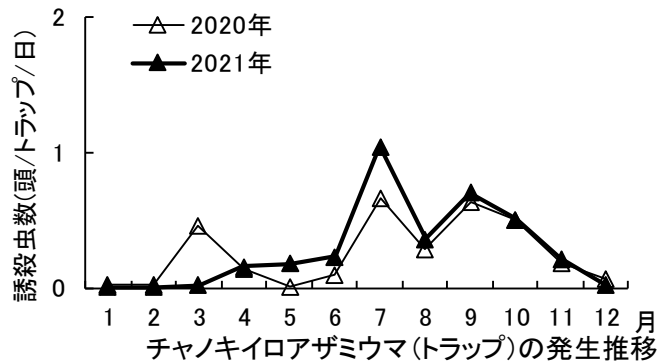
作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	やや少	
予報	2 月からの増減傾向	—	
	3 月の発生量 (平年比)		
予報の根拠			

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移




- ・発生施設率：20%（平年値：62%）
- ・新梢の数が基準以下のため、見取り調査のデータなし

防除のポイント

- ・開花期以降は本種が増加しやすいので、早期発見・防除に努める。
- ・開花中に薬剤散布を行う場合は、受粉昆虫に影響のない薬剤を選択する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・不要な新梢は、施設外に除去する。

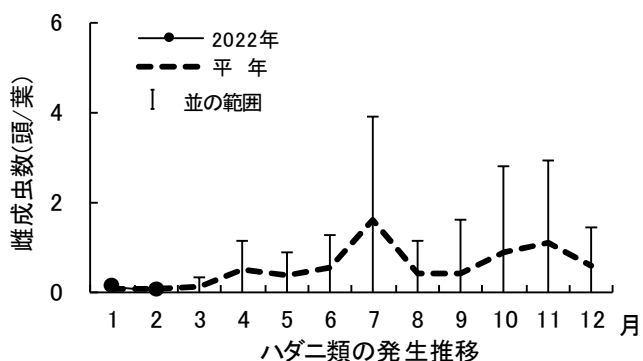
ナガエコミカンソウ



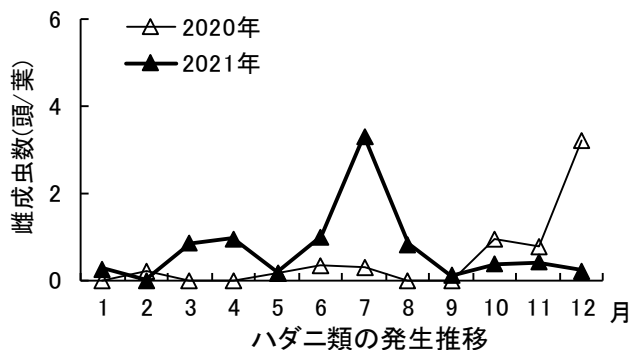
作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	① ハダニ類		 <p>シュレイツメハダニ</p>
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並	
予報	2 月からの増減傾向	→	
		3 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移




- ・ 発生施設率 : 25% (平年値 : 22%)

防除のポイント

- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

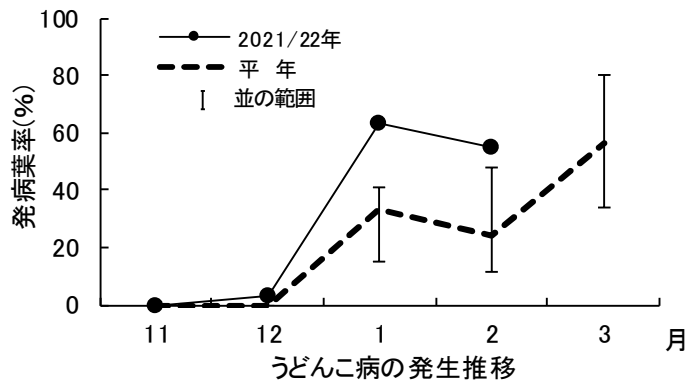


ハダニの寄生による葉のかすれ症

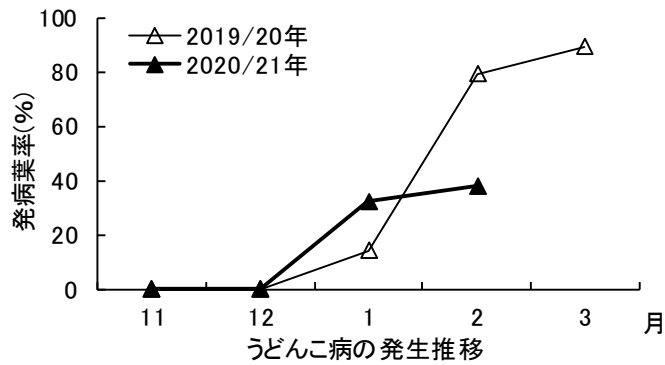
作物	かぼちゃ	地域	八重山群島
病害虫名	① うどんこ病		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	2 月からの増減傾向	↗	
	3 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移




過去 2 年の推移



・発生ほ場率：100% (平年値：100%)

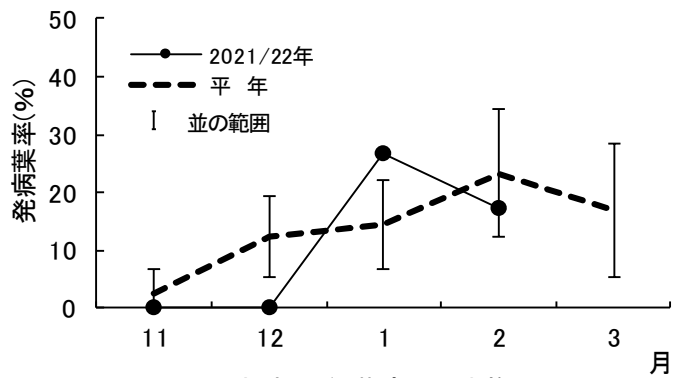
防除のポイント

- ・着果期以降は草勢の低下に伴い被害が急激に広がる場合があるので防除を徹底する。
- ・発生源となる老葉や不要な下葉を除去し、透光通風を良くする。
- ・窒素質肥料の多施用を避け、予防散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

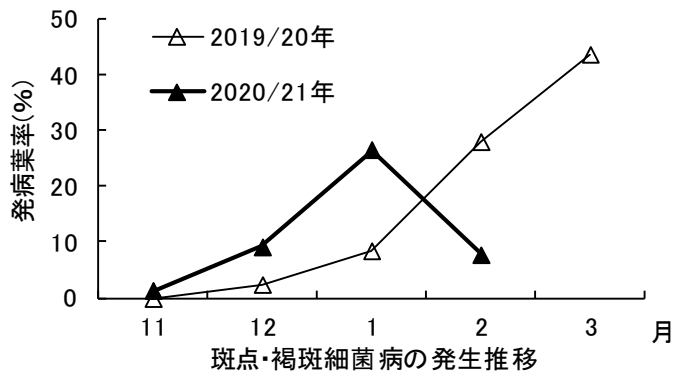
作物	かぼちゃ	地域	八重山群島
病害虫名	② 細菌病		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並	
予報	2 月からの増減傾向	↘	
	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

今期と平年の推移




過去 2 年の推移



・発生ほ場率：80% (平年値：80%)

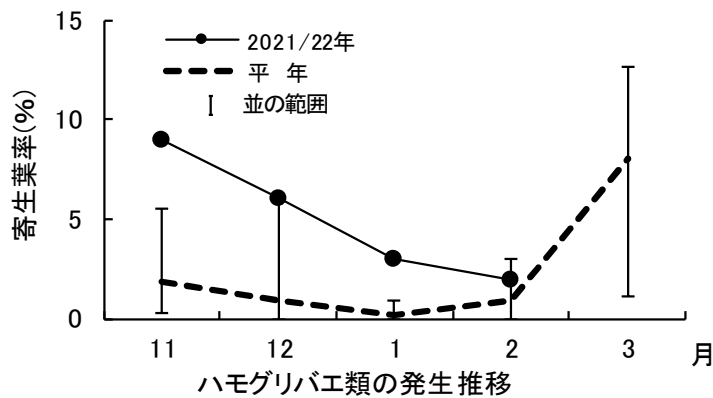
防除のポイント

- ・強風による葉すれ等の傷口から感染するため、防風垣（ソルゴーや防風ネット等）を設置する。
- ・降雨や強風などの気象条件が続くと急激に広がる場合があるので、風雨前の予防散布を徹底する。

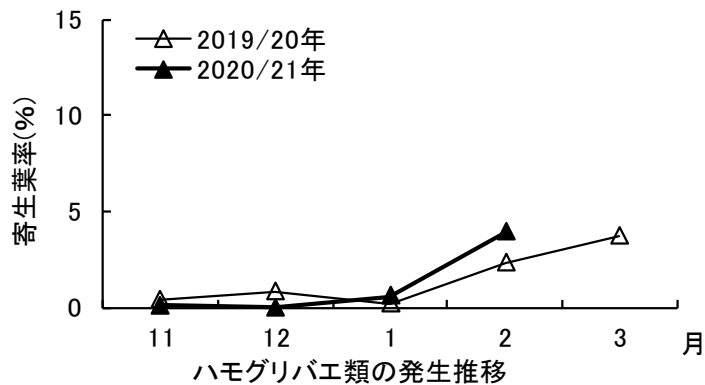
作物	かぼちゃ	地域	八重山群島
病害虫名	③ ハモグリバエ類		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並	
予報	2 月からの増減傾向	↗	
		3 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年の推移




・発生ほ場率：80%（平年値：60%）

防除のポイント

- ・多発すると防除が困難になること、また寄生痕からうどんこ病や細菌性病害が侵入する場合があることから、発生初期の防除を徹底する。
- ・幼虫期間が短いため、葉面に産卵痕や食害痕が見え始めたら防除を開始する。
- ・防除効果は幼虫の体色で判断する。生存時は黄色で死亡すると黒変する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ほ場周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。

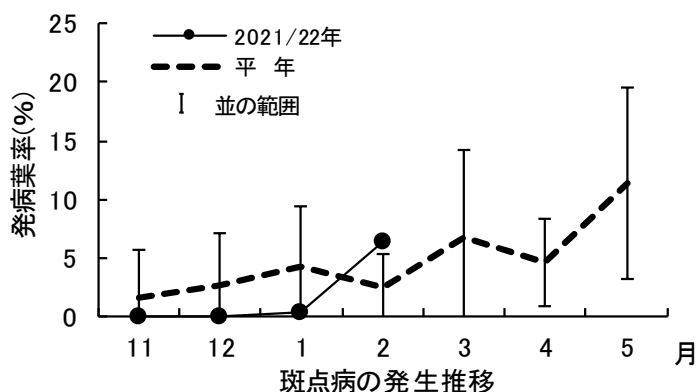
幼虫の死骸（農薬などで死亡すると黒色に変色）



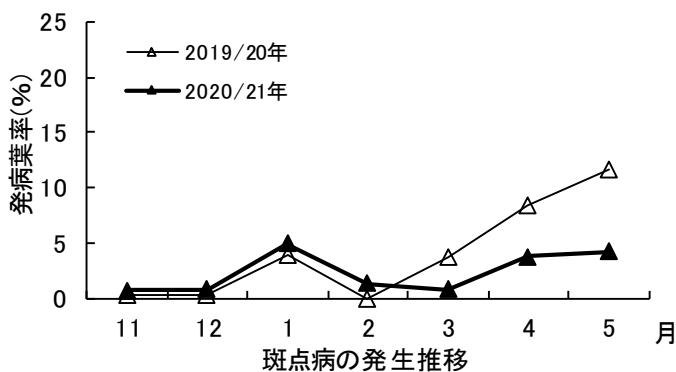
作物	ゴーヤー(施設)	地域	八重山群島
病害虫名	① 斑点病		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	2 月からの増減傾向	↗	
	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年の推移



・発生ほ場率：60%（平年値：30%）

防除のポイント

- ・葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・老葉や病葉は発生源になるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。またビニールの破れは補修する。